

奥羽大学報



行徳小学校まちなか探検

目次

無垢サロン/学長杯球技大会	2
青年実業家が講義/奥羽大学歯学会の開催/薬害講演会を開く/大阪府知事表彰、歯学部5期生の津金新さん	3
第27回奥羽大学公開講座/アルコール被害対策講演会/性感染症予防講演会	4
薬学教育評価機構の訪問調査/老健施設を訪問/職業研究セミナー、126社が協力/歯学部保護者懇談会/薬科大57校の学生部長会、郡山で	5
本年度 研究倫理・研究不正防止セミナー開催一覧/2020年入試改革を学ぶフォーラムinふくしま/奥羽大now	6
研究倫理・研究不正防止に関する大学院特別研修セミナー/行徳小学校まちなか探検/地域医療体験セミナー/「公認心理師」に合格	7
附属病院	8
自著を語る/キャンパスの風景	9
歯学部研究紹介	10
薬学部研究紹介	11
同窓会だより/同窓生のひろば	12
人事	13
奥羽大学の理念・目的/入試日程	14



学校知と実践知

歯学部歯科保存学講座歯周病学分野教授 高橋 慶壮

本学は歯学部と薬学部から成る医療系大学です。講義で教える専門的知識、いわゆる学校知 (academic intelligence) が国家試験合格の基盤です。学校知を習得する学力の基礎は国語力であり、読書量に依存します。かつて、英国労働党のトニー・ブレア元首相が、「最も重要な政策は『教育、教育、教育』である。英国の将来は10歳の子供たちの読書量にかかっている。」と議会で熱弁したことを覚えています。

中高生の時に読んだ推理小説、横溝正史やシャーロック・ホームズ集から犯人や犯行手口を推理する際のハラハラドキドキする面白さを知りました。作者のコナン・ドイルはエジンバラ大学医学部卒の医者でしたので、診断における臨床推論に通じるかもしれません。城山三郎の『落日燃ゆ』を読み、広田弘毅元首相の気骨さに感動しました。また、『雄気堂々』『もう君には頼まない』『男子の本懐』など痛快な人物伝が数多く執筆されています。一方、宮本輝の小説からは「文学」の魅力を感じます。『青が散る』『優駿』『泥の河』『流転の海』など秀逸です。人工知能 (artificial intelligence; AI) は文学作品をどう解釈するのか興味津々です。

医療の世界では、「健康長寿の延伸」が課題です。NHKが開発した「AIひろし」に高齢者の生活データを学習させて徹底分析したところ、「健康長寿」との関係が強く指摘されたのは、運動や食事よりも読書だったそうです。日本の超高齢社会を世相して、「笑点」で「18歳と81歳の違い」がお題になりました。「ドキドキするのが18歳、動悸が止まらないのが81歳」「恋に溺れるのが18歳、風呂で溺れるのが81歳」「心がもろいのが18歳、骨がもろいのが81歳」「道路を暴走するのが18歳、逆走するのが81歳」「偏差値が気になるのが18歳、血糖値が気になるのが81歳」などです。笑いは文化であり、読書と同じく健康にも良さそうです。

我々の仕事には学校知に加えて実践知 (practical intelligence) が求められます。習った学校知はしばしば間違っており、「学び直し」が必要です。英国の哲学者フランシス・ベーコンは「知は力なり」、「読書は充実した人間をつくり、会話は機転の利く人間をつくり、執筆は緻密な人間をつくる。」など名言を遺しています。読書、会話および執筆は、医療系専門職に求められる実践知の育成に有効でしょう。筆者はこれまで専門分野の著書を数冊執筆しましたが、自分の習った学校知が間違っていたことやカイゼン方法に気付くよい機会になりました。

「働き方改革」や「仕事のやりがい」が話題に上ります。欧米では、よくライフワーク (人生をかけた仕事) が紹介されます。これをもじってライスワーク (お金のためにする仕事)、ライクワーク (好きな仕事) あるいはライトワーク (社会に光を当てる仕事) と言う造語もあります。大学職員としては、少しでもライトワークを育てたいものです。

学長杯球技大会

10月6日(土)、学友会主催による第24回奥羽大学学長杯球技大会が本学体育館で開催された。

今年度は大玉転がし、バスケットボール、ドッジボールの3種目が行われた。多くの学生が参加し、活気あふれる大会であった。

学部や学年の垣根を超えたコミュニケーションが取られ、良い雰囲気の中で大会を終了することが出来た。



青年実業家が講義

11月28日(水)、歯学部1年生の「郡山学/福島学」(科目担当責任者安藤勝図書館長)の授業は郡山青年会議所の柳沼克郎さんが担当した。テーマは「郡山の未来を見つめて～郡山青年会議所の活動を通じて」。青少年教育事業やまちづくり事業の紹介が行われた。

柳沼さんは郡山市大町で会社を経営する38歳の実業家。社長業を務めながら郡山青年会議所の総務委員会委員長を務める若きリーダーだ。名刺には「己を信じ、仲間を信じて郡山の未来を切り拓け」「不撓不屈」と刷り込まれてある。

柳沼さんの熱のこもったマイクなしの講義に受講生は聴き入っていた。「無関心は町を衰退させる」と受講者にエールを送られた。



奥羽大学歯学会の開催

第66回奥羽大学歯学会が11月10日(土)に附属病院棟5階臨床講義室で開催された。当日は、学位口演を含めて15演題の発表があった。いずれの発表に対しても参加者から多くの質問が寄せられ、活発な討論が行われた。また、會津藩校日新館の宗像精館長による特別講演が、「戊辰150年 先人に学ぶ」と題して行われた。幕末の動乱期に「ならぬことはならぬ」で貫いた会津魂の支柱である日新館教育を中心に語られ、宗像館長の強い熱意が伝わる講演であった。



特別講演の宗像精日新館館長

薬害講演会を開く

10月22日(月)、歯学部「総合演習1D」、薬学部「チーム医療学演習II」の一環として薬害講演会が開かれた。講師に増山ゆかり氏を迎えサリドマイド薬害がなぜ起きたか、自身の体験を交え分かり易く話しがあった。「薬害と副作用の違いとは?」など学生と質疑応答を行いながら講義が進められた。特に、薬害による被害者の日常生活をビデオで紹介し、学生の薬害に対する意識を高めた。

SGD (Small Group Discussion) では、歯学部・薬学部混合のグループで、2つのテーマ①薬害は何故起きたのか?②薬害を防ぐためには如何にすればよいか?医療者の立場、一般市民の立場で活発なディスカッションが行われた。最後に、各グループの代表による発表が行われた。最も多かった意見は、情報の共有化、知識不足、情報の公開、迅速な対応などであった。



大阪府知事表彰、 歯学部5期生の津金新さん

本年5月、歯学部を昭和57年3月に卒業した5期生の津金新さんが大阪府知事より表彰を受けた。



多年公衆衛生の向上に尽力され、その功績が顕著であることが認められたものだ。豊中市歯科医師会の会長として、長年にわたり歯科医療の発展に精励した。また、各種関連機関の委員を歴任し、豊中市民の歯科口腔保健推進のため、休日診療・健診事業を始めとする各種事業においても積極的に参画実践を重ねた。特に歯科治療の分野では長年にわたり研鑽を重ね、その普及・指導に大きく貢献された。

津金さんは現在豊中市で管理歯科医師としてご活躍中だ。

第27回奥羽大学公開講座

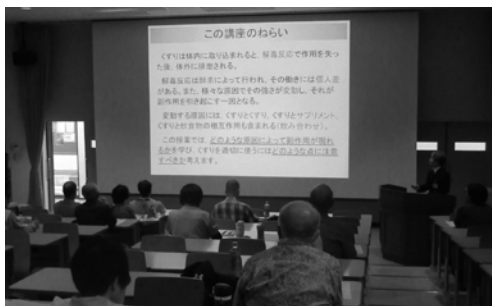
本年度の公開講座は、9月1日(土)から毎週土曜日に合計8講座が開催された。

総合テーマは昨年引き続き「奥羽大学発 健康宣言2018」として、歯学部・薬学部専門分野をわかりやすく解説した。

会場 第3講義棟311教室

時間 1時間目：9:30～10:30

2時間目：10:45～11:45



期日	学部	講師名	演題
9月1日(土)	歯学部	斎藤昇太郎 講師	健康にまつわる化学物質への理解
	薬学部	古泉 博之 准教授	脳はどのようにでき上がるか?～発達障がいを理解しよう～
9月8日(土)	歯学部	本多 真史 講師	方言は「生きる力」～被災地の人々の心の支えに～
	薬学部	守屋 孝洋 教授	「早起きは三文の得」は本当? ～体内時計と健康について～
9月22日(土)	歯学部	南 健太郎 講師	たのしく学ぼう! 「フッ化物」を使ったむし菌の予防法
	薬学部	佐久間 勉 教授	身体に入ったおクスリはどうなるか?
9月29日(土)	歯学部	松本 知生 講師	口腔インプラント治療ではじめる健口長寿
	薬学部	杉野 雅浩 講師	身の回りの化学物質と健康

アルコール被害対策講演会

9月3日(月)、第2講義棟第1講義室において、福島県立医科大学看護学部の大川貴子氏によるアルコール被害対策講演会が歯学部学生を対象として行われた。題名は「大学生に聞いてほしいアルコールとの上手な付き合い方」。アルコールの習慣化により招かれる病気や依存、間違った認識での飲酒により引き起こされる日常生活への弊害などについて説明された。学生達は熱心に耳を傾けていた。



性感染症予防講演会

10月15日(月)、歯・薬学部第1学年を対象とした、性感染症予防講演会が実施された。近年、20・30代の若年層におけるHIV感染者が急増しており、性感染症対策の必要性が高まっている。そのため、郡山市保健所の佐藤隆行氏を講師に招き、1時間の講演が行われた。講演では感染経路や感染後のリスク、また郡山市内にある相談窓口の紹介など具体的に説明していただいた。学生にとっては性感染症について考える良い機会となった。



薬学教育評価機構の訪問調査

教育評価とは、学校の自主性・自律性の確立といった点を核としながら、学校が組織としてどのような教育課程（カリキュラム）を編成し、どのような教育活動を展開し学生の学習成果を出しているかを評価することである。本学薬学部は、今年度の薬学教育評価機構による教育評価を受審した。その対象は平成29年度に実施した本学部の教育であり、10月11日(木)、12日(金)には当該機構の訪問調査があった。調査は、定期試験問題・答案等の閲覧、大学関係者との意見交換、施設見学・授業参観、若手教員との意見交換、学生との面談などとともに膨大な資料も評価の対象となり実施された。

なお、評価結果は3月末に公表される。

老健施設を訪問

11月19日(月)及び26日(月)の2日間にわたり、薬学部第1学年は早期体験学習の一環として老健施設を訪問した。今回は郡山市内並びに本宮市内の5施設にご協力をいただいた。訪問した学生らは、介護老人保健施設で活躍する医療職各位の働く姿に接して、生命倫理の大切さ、施設におけるチーム医療の重要性について深く理解し、また地域の福祉施設の重要性について十分に認識することができたようだ。少子高齢化社会での薬剤師の役割について考える良い機会にもなった。

職業研究セミナー、126社が協力

未来を担うに相応しい社会人となるべく、職業観を育成する事を目的に毎年実施している薬学部の職業研究セミナーが、12月6日(木)・7日(金)の2日間実施された。

薬剤師の3年以内の転職率は他の業種に比べて高く、就職先とのミスマッチが原因であると言われていいる。ますます多様化する薬剤師としての働き方、社会との関わりを学ぶ事は重要である。このセミナーの目的は人事担当者や第一線の現場で働く薬剤師から事業所の理念、目指す方向性、社会貢献について直接話を聞いて自身の職業観を育成することである。本年度も病院、保険薬局、製造業など126社のご協力を得て無事終了した。

歯学部保護者懇談会

10月13日(土)、学生食堂ハーモニーと中央棟で歯学部保護者懇談会が開催された。

個別面談には99組の保護者が参加され、学年主任・クラス担任から成績や学習における進捗状況が報告された。特に第6学年に対しては卒業試験や国家試験へ向けた学習、第4学年に対してはCBTやOSCEへの対策等の説明が熱心に行われた。



薬科大57校の学生部長会、郡山で

11月30日(金)、第38回日本私立薬科大学協会学生部長会が、本学が委員長校となり、郡山ビューホテルアネックスで開催された。全国から薬科大学57校が一堂に会し、盛大な会となった。初めに、衛藤雅昭薬学部長より挨拶があり奥羽大学や郡山の歴史なども紹介された。次に議事・承合事項として、障がい学生や被災学生に対する支援について、また本学提案の新実務実習をにらんだ健康診断の実施について、活発な討議が行われた。その後早坂正孝学生部長のあいさつで始まった懇親会では、次年度開催校の愛知学院大学より乾杯が行なわれるなど、盛会裡に終了した。



本年度 研究倫理・研究不正防止セミナー開催一覧

開催日時	講師 所属	内容
H30.7.20 (金) 17:40 ~ 19:00	近田 政博 氏 神戸大学大学教育推進機構	研究指導で生じる大学院生と教員間の問題とその改善策
H30.10.12 (金) 17:40 ~ 19:00	松井 健志 氏 国立循環器病研究センター	研究倫理の基本的な考え方
H30.10.26 (金) 18:20 ~ 19:40	大隅 典子 氏 東北大学創生応用医科学センター	医学研究における研究倫理

2020年入試改革を学ぶフォーラムinふくしま

10月20日(土)、本学と福島民報社の連携事業の一環として、「2020年入試改革を学ぶフォーラムinふくしま」が本学記念講堂にて開催され、300名近い教育関係者、高校生、保護者らが参加した。

東進ハイスクールのカリスマ英語教師として活躍する傍ら、文部科学省審議会委員を務めている安河内哲也氏が基調講演を行い、大学、高校、私塾の代表によるパネルディスカッションも展開された。



奥羽大NOW

本学と福島民報社との連携協力協定

9月25日(火)、本学キャンパス記念講堂3階学長室において、本学と福島民報社が連携協力協定を締結した。

ねらいは、本学の研究・教育力と新聞社の情報活用力を生かして、地域の人たちの健康づくりに連携しようというもの。

協定の締結式は本学から学長を含めて8名、福島民報社から社長を含めて5名が参加した。本学の清野和夫学長と福島民報社の高橋雅行社長がそれぞれあいさつを交し、協定書に署名した。

締結式のあと、座談会を開き、連携のありかたについて意見を出し合った。すでに本学の

授業で行われている出前授業なども、続ける意向を示した。



協定書を手にする清野和夫奥羽大学長(左)と高橋雅行福島民報社社長(右)

研究倫理・研究不正防止に関する大学院特別研修セミナー

研究倫理・研究不正防止に関する平成30年度第3回大学院特別研修セミナーが、10月12日(金)、第3講義棟332教室で開催された。講師は、国立循環器病研究センター医学倫理研究部長の松井健志博士。臨床研究において最も考えなくてはならない被験者の人権に対してどのような態度で臨んでいるのかを学ぶ機会となった。単に研究倫理に関するガイドラインや規則を守ることに終始するのではなく、医療者・研究者としての正しい倫理観に基づいた医療行為及び研究活動を行う重要性を再認識するものであった。当日は、歯学部教員・薬学部教員・大学院生の計138名が参加した。

第4回大学院特別研修セミナーは10月26日(金)、第3講義棟332教室で18:20～19:40まで開催された。講師は、東北大学副学長の大隅典子教授。医学研究における研究倫理と論文指導に関して、研究不正の原因・背景から、それを無くすための具体的な方策が述べられた。今後の本学における歯学・薬学研究の遂行や大学院生に対する学位論文指導を行う上で極めて有益なセミナーとなった。当日は歯学部・薬学部教員・大学院生の計137名が参加した。



東北大学副学長 大隅典子教授

行徳小学校まちなか探検

11月16日(金)、本学に隣接する郡山市立行徳小学校2年生8名が、生活科の授業「もつとなかよしまちたんけん」の学習で本学キャンパスを訪れ、構内にある銅像を探しながら緑豊かなキャンパス内を散策した。また、働く職員へのインタビューをするなどの活動もした。



地域医療体験セミナー

11月16日(金)、医療人を志す子どもの夢応援事業「後期地域医療体験セミナー」が本学で実施された。

主催は福島県教育委員会。本学の歯科医師および薬剤師の職業体験プログラムに参加した6名の高校1年生は、医療現場での体験に将来への夢を膨らませていた。



「公認心理師」に合格

歯学部心理学分野の鈴木敏城です。今年度から認定が始まりました国家資格「公認心理師」試験に合格いたしました。登録手続きはこれからですが、心理学の分野で初めての国家資格ですので喜んでおります。これから心理学の世界では、「公認心理師」と「臨床心理士」の両資格の取得が重要だと思います。両資格に恥じぬよう学生を心理的に支えていく所存です。「公認心理師」の名称使用は登録手続き終了後になります。今後とも宜しくお願い申し上げます。

(歯学部講師 鈴木敏城)

附属病院

指導歯科医資質向上講習会・臨床研修管理委員会

9月29日(土)、本年度指導歯科医資質向上講習会および第2回臨床研修管理委員会が郡山ビューホテル本館で開催された。講習会では日本歯科大学新潟病院訪問歯科口腔ケア科科長の白野美和氏に「要介護高齢者の訪問歯科診療～訪問歯科診療の現場から何を学ぶのか～」の演題で講演を頂き、管理委員会では清野晃孝副委員長より今後の臨床研修の動向について説明がなされた。また、情報交換会では参加者の活発な意見交換があり、盛会裡に幕を閉じた。



講演中の日本歯科大新潟病院の白野美和氏

歯科医師臨床研修指導歯科医講習会

本年度歯科医師臨床研修指導歯科医講習会は病院棟5階会議室で、11月17日(土)、18日(日)の両日にわたって開催された。

本学歯学部教員7名と学外の歯科医師19名が参加した。スーパーバイザーの日本歯科大学附属病院の横澤茂准教授とチーフタスクフォースとして本学の清野晃孝准教授が主導した。特別講師として厚生労働省医政局から昨年に続き山口聖士歯科医師臨床研修専門官を迎えた。直近の臨床研修の問題点と対応策を練ることと臨床研修のカリキュラムプランニングをプロダクトとして作成、発表するなど、大変有意義な講習会であった。



「おもいやり駐車場」を整備

歯学部附属病院では、1階病院警備室前に「おもいやり駐車場」を整備した。これで当院の「おもいやり駐車場」は、2階病院玄関西側との2カ所となった。

この駐車場は、歩行が困難な障がい者の方、難病患者の方、要支援高齢者、妊産婦、けが又は病気の方などが駐車をするスペースとなる。

なお、駐車場の適正な利用については、皆様のご理解とご協力をお願いしたいと病院では呼びかけている。



臨床教育セミナー特別講演会

研修歯科医および附属病院業務に従事する教職員等を対象に、下記の日程で臨床教育セミナー特別講演会を開催した。

10月25日(休)

演題：「明るい歯科の未来のために」
～我々がこれからすべきこと～

講師：吉田展也氏 奥羽大学歯学部12期卒、奥羽大学歯学部同窓会専務理事、吉田歯科クリニック院長（福島県中島村）

11月29日(休)

演題：歯科保健事業と歯科医師会

講師：公益社団法人 福島県歯科医師会
常務理事 池山 丈二氏



講演する吉田展也氏

自著を語る

『歯科における安全で確実な局所麻酔』

一戸達也・関根秀志ほか著 第一歯科出版 2013年

歯科疾患には痛みがつきものです。思想家・内村鑑三は激しい歯痛を和らげた歯科治療の経験から「Dentistry is a Work of Love」という言葉を残しています。痛みのコントロールは歯科治療の根幹をなすものです。本書は、その痛みへの対処法となる局所麻酔に焦点を当てた書籍です。歯科麻酔の基礎と臨床に加え、応用編では保存・補綴治療に加え小児歯科、口腔インプラントさらに基礎疾患を有する患者への対応など、日常臨床の現場においてより安全に効率よく局所麻酔を施すためのノウハウがまとめられています。ぜひ、お手にとっていただきたい一冊です。

(歯学部歯科補綴学講座 教授 関根秀志)

キャンパスの
風景

定礎

おや？ この写真の場所、どこかで見た事がありますね。ありますとも。チコちゃんに叱られそう。「ほやっと歩いているんじゃないよ」と。

写真の場所は中央棟の玄関入口ホールです。ところで、「定礎(ていそ)」とはなに？ 頼りになるウェブ情報によると、「建築工事で礎石を据えること。工事を開始すること」。「定礎のプレートを開けると、(建物解体以外は開けられない) 定礎箱があり、その中には当時の設計図、新聞、決算書など諸々の物が入っていることもある」というもの。いわゆるタイムカプセルですね。

プレートの表面には竣工日などが記されています。この写真には「昭和51年5月15日 創立者 影山四郎」と書かれてあります。創立者の直筆です。文学部や薬学部はまだ誕生しておりません。『奥羽大学三十年史』でこの年の出来事をひもとくと、「本学創立者影山四郎理事長、韓国政府より国民勲章(冬栢章)授与」「中央棟前滝及び池新設工事」「テニスコート開場式」「中央棟落成式」などがあり、本学が創成期からいよいよ内実ともに発展の時期を迎えようとしていることが分かります。当時のエネルギーの高鳴りが感じられるモニュメントです。(A)



歯学部研究紹介

オハイオ州立大学矯正歯科での教育および研究活動報告

成長発育歯学講座 歯科矯正学分野 講師 川鍋 仁

7月にアメリカ合衆国のオハイオ州立大学歯科矯正学講座にて講演と共同研究打ち合わせをさせていただきましたので、その概要についてご報告させていただきます。

昨年度、留学させていただいた際にオハイオ州立大学矯正学講座にてClinical Observerの称号を拝命しました。

今回、オハイオ州立大学歯科矯正学教室のレジデントに対して講義依頼をいただいたため、渡米しました。講義の内容は、私がこれまで日本でやってきた矯正治療、口腔外科治療、歯周治療、外傷治療など歯科の包括治療に関しての症例を提示しながら講義しました。

アメリカでも、包括医療をすべて一人で実施している歯科医師はいないようでとても驚かされていました。現在、アメリカでも包括治療は重要となり患者のニーズにあった医療ができる人材の育成が望まれているようです。本学でも、歯科包括医療ができるような歯科医師の教育を行っていきたくて考えております。

その他に、本学矯正歯科の特色の一つである口唇・口蓋裂患者に対する治療に関して講義をしました。本学矯正歯科では、生後早期(生後1週間)より口唇形成術前顎矯正治療を行っています。オハイオ州立大学では、顎矯正治療ができる歯科医師がいないとのことで興味深かったのか質問を多くしていただきました。

また、研究面では、昨年度よりオハイオ州立大学との共同研究を行い2018年3月22日(木)から25日(日)にかけてアメリカのフロリダ州で開催された47th American Academy of Dental Research (AADR)にて『Relationships between facial morphological measurements by CBCT.』というタイトルで共同発表させていただきました。その内容に関して、今回も研究の打ち合わせを行いました。研究内容は、顎顔面形態と顎関節形態との関係性についてCBCTを用いて3次的に相関関係を導き出すという世界初の試みであります。日本では、CBCTでの矯正診断はまだ認められていませんが、アメリカ矯正歯科学会では得られる情報量の多さからCBCTで分析を行い、そのデータを基に矯正診断することが認められております。日本でも、近い将来CBCTを用いた矯正診断が認められるようになって考えております。

したがって、本研究により顎顔面形態の新たな診断法を確立し、治療方針を立案する際の一助となることを期待しております。今後も継続してオハイオ州立大学と共同研究を進めていく予定であります。

さて、堅い話ばかりではなくアメリカでの週末の過ごし方についてお話しさせていただきます。昨年度、留学させていただいた際にオハイオ州立大学の先生方と生まれて初めてトライアスロンに挑戦させていただきました。このレースは、OHIO STATE ROSS HEART HOSPITALというオハイオ州立大学の付属病院が主催で行われるものです。今年も、同じトライアスロンに出場させていただきました。およそ2000人が参加するオハイオ州で最も大きな大会です。日曜日に行われるのですが、前日の土曜日からレースの準備を街中で行います。その様相は、まるでお祭りのようです。トライアスロンのコースは、ANTRIM PARKという大きな公園内にある湖を泳ぎ、普段は、交通量が多く走ることのできない街の車道を自転車でも走り、最後は、オハイオ州立大学の中を走りゴールであるOHIO STADIUMに向かうとても綺麗なコースです。今年の成績は、昨年度より良い結果となりました。

今後も、研究、教育、臨床そして異文化コミュニケーションを奥羽大学とオハイオ州立大学間で行うための架け橋となることが私の使命であると考えております。

本学の学生で、海外に行って色々な経験をしたという方は、どうぞ気軽に話しかけていただければ幸いです。



トライアスロン時のレース風景と完走メダル



講義後に戴いたCertificate

薬学部研究紹介**サーカディアン時計の位相調節機構と環境適応能を高める薬物・食品成分の開発研究
生物・衛生化学（機能形態学分野） 教授 守屋 孝洋**

朝に目覚め、夜も更けてくると自然と眠くなるという24時間周期の生体リズムはサーカディアンリズム（概日リズム）とも呼ばれ、「視交叉上核」と呼ばれる脳視床下部の小さな神経核に存在するサーカディアン時計によって生み出されています。近年の24時間化社会の到来により、人々はサーカディアン時計の支配に逆らうような生活を強いられるようになり、その結果として睡眠障害だけでなく、悪性腫瘍やメタボリックシンドローム、心血管障害などのリスクが上昇していることが報告されるようになってきました。すなわち、サーカディアン時計の機能破綻は睡眠や覚醒といった24時間周期の生活リズムのかく乱だけではなく、一見、1日のリズムと関係がないと思われていた多くの疾患の発症に深く関係することが明らかになってきたのです。

私たちの研究室では、サーカディアン時計の働きを調節する「光」や「食事」の力に着目し、これらがサーカディアン時計の位相（針）をどのような仕組みで調節するのかについて解明し、さらにサーカディアン時計の環境適応能を高める薬物や食品成分を開発することによって、体内時計の働きを整えることによる様々な疾病の予防法の開発研究にチャレンジしています。

私が学生の頃、サーカディアン時計の研究は、実験動物の時計時間に合わせて実験をする必要があり、徹夜の実験が必須でしたが、これでは研究者自身の時計が壊れてしまい、よろしくありません。そこで私たちはサーカディアン時計の分子の実体である時計遺伝子と発光レポーターのルシフェラーゼ発現系を利用することにより、サーカディアン時計の24時間振動を自動的に、かつリアルタイムで解析するシステムを採用しています（図1）。

これらの最新の技術を用い、多くの先生方のご指導もいただきながら、研究室に配属された奥羽大学薬学部の優秀な学生諸氏と共に研究を進め、それらの成果を世界に発信していきたいと強く思い、希望を胸において頑張っていきます。

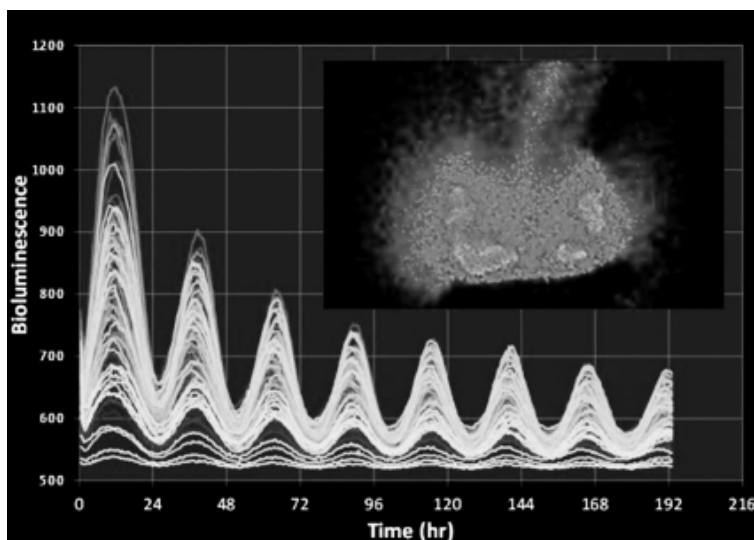


図1. 時計タンパク質PER2に融合したホタル発光タンパク質のルシフェラーゼを用い、視交叉上核のサーカディアン時計の24時間振動を約7日間、自動記録した。

同窓会だより

久保田 優里(東京支部理事 歯学部22期卒)
同窓の先生におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年度より東京支部で理事をさせていただいております、22期の久保田優里と申します。

現在、東京支部は1期生から37期生までの会員約420名、執行部役員25名で運営しております。支部の今年度の活動としましては、年1回の総会、保険講習会、年10回の理事会、学術講演会として、本学を中心に講師をお招きする他、会員の症例検討会等、年3~4回開催しております。また、今年度より、東京開催の本学学術講演会における運営協力もすることになりました。厚生事業として、会員相互の親睦の場として、夏に納涼会、来冬には忘年会を開催する予定です。

今年は4年ぶりに東京支部の会員名簿作成を行いました。当支部の会員は土地柄、移動等も多く、消息究明に苦戦を強いられるも、無事に出来上がりました。ただ、東京で開業されていてまだ未入会の先生もまだまだいらっしゃると思います。私達当支部役員も支部の更なる活性化に向けて努力してまいりますので、同じ同窓生として、是非是非、入会して頂きたいと思います。重ねて、より多くの会員の先生方の積極的な会へのご参加を是非ともよろしくお願いいたします。



納涼 屋形船にて

同窓生のひろば



芹澤 香織(旧姓登根)
(歯学部21期生)

この度の、全国各地で発生した自然災害により、被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。

私共が暮らしております、山口県も、台風の通り道になることが多く、毎回無事を祈りながら、同じく21期生の主人と私、ときどき父、の3人で、下関市内の、人口約3.5万人の島で、日々診療しております。

卒業後は、福岡大学医学部歯科口腔外科講座にて、卒後研修を含め、2年半お世話になり、外科処置や有病者歯科、歯科心身症について勉強させて頂きました。

歯科心身症には、舌痛症や非定型歯痛、口腔異常感症などの、口腔・顔面領域に起こる、原因不明の慢性的な痛みや違和感、異常感などの症状が含まれ、診断や治療には、慎重さと熟練を要するものと感じております。この様な症状でお困りの患者さんに対して、一次医療機関として、適切な診療科への橋渡しが出来ればと、現在も学会等で、新しい知識・情報を収集し、診療に役立てております。今年は、7月の西日本豪雨のさなかに、日本顎関節学会・日本口腔顔面痛学会・日本歯科心身医学会の3学会合同大会が北九州市で行われ、複数の演者が岡山で足止めに遭うなどの大混乱の中、本学9期生の安彦善裕先生(北海道医療大学教授)や、福岡大学時代の恩師、豊福明先生(東京医科歯科大学教授)の御講演を拝聴しました。3学会合同での開催であった為、他の学会の発表を拝見する事が出来ましたが、同じ様な症例であっても、学会ごとに、こうも解釈や対応が違うものかと、考えさせられるものがありました。

同窓会活動の方は、研修医時代に、前支部長の川村浩之先生(1期生)にお声掛け頂き、現在も九州圏人会に参加させて頂いております。いつまでも後輩気分で、先輩方にお世話になりっぱなしですが、気が付けば今年で卒後20年となり、中堅の世代になってしまいました。

その際に聞きました、一回り以上離れた後輩の話によりますと、彼らは入学時に、「今の歯科界は厳し

いが、君達が40歳位になった頃には、楽になるから、頑張れ」と言われた、とのこと。彼らの年齢からして、あと8年位となると、ちょうど2025年問題の事を指しておられたのでしょうか、一説によると、山口県は、全国3位の高齢化率と言われている。当院でも、寝たきりの患者さんの往診に、時には車道のない、山の上のお宅まで器材を抱えて伺ったり、他院で抜歯したことを忘れ、黒絹糸付きで来院した患者さんを、医院名の手がかりを一緒に探して、「行った覚えのない」その歯科医院まで送り届けたり、「水虫の薬を出してもらわないと帰らんぞ!」と居座る患者さんの対応など、直接治療に関係のない事に追われることも多くなり、毎日身につまされる思いがありますが、ご家族が『「登根さんとこ行ってくる」が父の最期の言葉でしたよ」と、わざわざ報告にいらして、少し救われた気持ちになったりと、そんな日々を過ごしております。

これからさらに押し寄せるであろう高齢化の波に、立ち向かう!というより、一緒に波に乗りながら、今後も、コツコツと、地域に根差した診療を続けて行こうと思っております。



高橋 千枝子(旧姓八木)

(文学部8期生)

同窓生の皆さん、大変ご無沙汰しています。

平成12年3月に文学部日本語日本文学科を卒業した高橋です。私は平成13年4月から岩手県の中学校教員として勤務しております。勤務してから、今年度で18年目を迎えました。今は地元の花巻市内の中学校に勤め、3年生を担当しています。そして、生徒会を担当させていただいています。

前任校は全校35人の小さな学校でした。今は全校500人を超える大規模校。転勤当初はその規模の違

いになかなか慣れず、また、日々の目まぐるしさに心も体もついていかず、大変苦勞をしました。しかし、たくさんの先生方や保護者の皆さん、もちろん、生徒の存在にも支えられて、今日の自分があるなあとしみじみ思いません。

私が生徒会を担当するのは、前任校での経験を含めると2回目ですが、最初は小規模校との違いに不安ばかりでした。今まで見てきた先生方のようにできるか、500人規模の学校を動かすことが自分にできるか…。何ヶ月も先を見て、細かいところまで計画を立てるのは、本当に大変です。でも、生徒がねらいや目標に向かって一生懸命やっている姿を見ると、心から嬉しくなります。

先日の生徒総会をもって、担当期間が終わりました。時間の流れがあつという間で、家のことも十分にできないこともたくさんありましたが、本当にいい経験をさせていただいたと感謝しています。

10月、文化祭が終わったあと、担任をしている学級の生徒に感想を書いてもらいました。

「今までこの学級が好きではなく、文化祭を楽しんでいたこともなかった。でも、今年の文化祭では、壁新聞の係となってみんなで頑張ったり、合唱をみんなで割り上げたりすることが本当に楽しかった。このクラスで本当に良かった。」そう書いてくれた生徒がいました。読みながら、胸が熱くなりました。

生徒は日々変化していると感じます。その生徒の変化を楽しみつつ、自分の変化も楽しんでいきたいと思っています。

最後になりましたが、同窓生の皆さんのますますのご活躍と奥羽大学のますますのご発展を心からお祈りしております。

人 事

<退 職>

益成 秀治 歯科技工士 病院医療部 10月31日付

奥羽大学報160号(通算No.285)平成30年12月14日発行
 発行 奥羽大学
 学報編集委員会
 委員長 清野和夫

☎963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1
 電話 024 (932) 8931(代) FAX 024 (933) 7372
 ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>
 メールアドレス info@ohu-u.ac.jp

※「奥羽大学報」送付先変更の方は、FAXまたはメールでご一報をお願いします。

奥羽大学の理念・目的

理念

高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな人材を育成する。

目的

奥羽大学は、教育基本法(昭和22年法律第25号)並びに学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づき、広く知識を養うと共に、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を育成し、国民の福祉と文化の発展に寄与することとし各学部はその目的は、次の各号のとおりとする。

1. 歯学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師を養成する
2. 薬学部は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな薬剤師を養成する

平成31年度 入試日程・試験会場
(特待生選抜入学試験・一般選抜入学試験)

歯学部						
	人数	出願期間	試験日	合格発表日	会場	
特待生 選抜入試	一期	25名	H31年、1月7日(月)～1月21日(月)	H31年、1月24日(木)	H31年、1月29日(火)	郡山(奥羽大学)
	二期	5名	2月25日(月)～3月14日(木)	3月19日(火)	3月22日(金)	郡山(奥羽大学)
同窓特別	二期	5名	2月25日(月)～3月14日(木)	3月19日(火)	3月22日(金)	郡山(奥羽大学)
一般 選抜入試	一期	30名	1月7日(月)～1月21日(月)	1月24日(木)	1月29日(火)	郡山(奥羽大学)・東京・大阪
	二期	10名	2月4日(月)～2月18日(月)	2月21日(木)	2月23日(土)	郡山(奥羽大学)・東京・大阪
	三期	6名	2月25日(月)～3月14日(木)	3月19日(火)	3月22日(金)	郡山(奥羽大学)・東京・大阪

薬学部						
	人数	出願期間	試験日	合格発表日	会場	
特待生 選抜入試	一期	25名	H31年、1月7日(月)～1月21日(月)	H31年、1月24日(木)	H31年、1月29日(火)	郡山(奥羽大学)
	二期	5名	2月25日(月)～3月14日(木)	3月18日(月)	3月20日(水)	郡山(奥羽大学)
一般 選抜入試	一期	45名	1月7日(月)～1月21日(月)	1月25日(金)	1月29日(火)	郡山(奥羽大学)・仙台・大阪
	二期	20名	1月30日(水)～2月12日(火)	2月15日(金)	2月19日(火)	郡山(奥羽大学)・仙台・大阪
	三期	5名	2月25日(月)～3月14日(木)	3月18日(月)	3月20日(水)	郡山(奥羽大学)

平成31年度 歯学部・薬学部 編入学試験概要

出願資格		
	編入学年	出願資格
歯学部・薬学部	2年次	① 大学を卒業又は2019年3月卒業見込みの者 ② 短期大学を卒業又は2019年3月卒業見込みの者 ③ 高等専門学校を卒業又は2019年3月卒業見込みの者 ④ 医療系専修学校専門課程を修了した者又は2019年3月修了見込みの者 ⑤ 大学に2年以上在学し62単位以上を修得した者 ⑥ 歯学部又は薬学部並びに医学部に1年以上在学し、第1学年の所定の単位を修得した者
歯学部	3・4年次	① 歯科大学又は歯学部3年以上在学し、当該学年所定の単位を修得した者 ※出願受付時に、前大学の履修科目単位を審査のうえ3年次、4年次編入学試験区分を指定する

試験日程					
	編入学年	募集人数	出願期間	試験日	合格発表日
歯学部・薬学部	2年次	若干名	H30年、9月3日(月)～3月20日(水)	随時	試験後3日以内
歯学部	3・4年次		一期	H31年、2月4日(月)～2月22日(金)	H31年、2/25(月)
		二期	2月28日(木)～3月19日(火)	3/25(月)	3月26日(火)